

コレジオプロジェクト通信 2号

平成23年3月19日(土)

1. 3月末の超繁忙期をよそ眼に、行ってきました雲仙へ！！！！

3月19日、恐らく、いや間違いなく、若いメンバーの方々は、年度末納期に追われ、必死でパソコンと闘っているであろう、まさにそのような日、おじさん3人組（波木事務局長、木寺さん、矢ヶ部）は、雲仙の魅力を満喫すべく、チームギアの松本さんが待つ「竹添ハウス」へ、のんびりと向かっていたのです。

春の行楽時期にも入ったということで、渋滞に巻き込まれ、約1時間遅れで「竹添ハウス」に到着。

さっそく、松本さんの車を先導に、途中、棚田の風景をみることができる展望台によりつつ、一路、雲仙温泉へ。

雲仙温泉街では、最初に、雲仙の温泉街の中にある、今回のチームギアの仲間でもある田浦さんの酒屋にも寄らせてもらい、お勧めの焼酎なんぞを購入させていただきました（右写真）。次に、昭和10年開業、当時は上海経路で来日した欧米人の避暑地でもあった雲仙の歴史を今に



伝え、昭和天皇も泊まれた由緒ある「雲仙観光ホテル」を見学。松本さんの御威光素晴らしく、ホテルの副支配人はじめ、多くのホテルマンが私たちを迎えてくれました。格式、品位、申し分のないロビーや数々の部屋を見て回り、1階の食堂では、「ここで、会食を兼ねた共助研の全体会議やりませんか」などという夢のようなお話まで飛び交っていました。……(んん、この修学旅行のような楽しい紀行文をつらつら書きつ慣れていいのだろうか、少々不安になるものの、今回の目的が、雲仙の魅力を「よそ者」である私たちの目で再認識するということなので、勇氣と目的意識をしっかりとって書き連ねることとします)……ここ雲仙は、前述したように昭和の中期までは、イギリスなどの外人さんたちの避暑地であった場所で、他の観光地と全く違った雰囲気醸し出していることが、大いに興味をひかれました。その雲仙の独特雰囲気の解釈は、後述します。



大分犬飼の長谷地区に続き、共助研の新たなプロジェクトになるであろうここ雲仙は、かつて噴火し大きな被害を出した普賢岳にもみるように、ジオパークとして指定される一方、中産間地域同様に高齢化などで、人口減の悩みを抱えるところでもあります。チームギアの松本さんたちの取り組みは、地域で埋もれつつある文化を、次の世代にしっかり引き継ぐためのシステムづくりを目指したプロジェクトであろうと思



っています。そのような活動の中で、私たちのような「よそ者」が、地域で消えつつある文化を見て、どのような可能性を持つ資源なのか、その雲仙の持つ独自の地域文化の価値を何らかの方法で定量的・定性的に評価することが使命です。きわめて建設コンサルタント技術者としての経験と技術を持って取り組むべきテーマではないかと感じながら、リッチなホテル、風情のある温泉街、なかなか他では手に入らない銘酒等を満喫することが、そのための必須の課題であると自分を戒め、高尚な目的意識を持ち

つつも、観光客気分、役得、役得と内心ニコニコしながら雲仙温泉街を後にしました。

短時間の現地見学でしたが、雲仙温泉の魅力は、単に温泉が湧いているというだけでなく、観光とリゾートのオリジナルの形が残っているというところにあるのではと感じました。これまでの欧米人の避暑地であったという歴史と、そこで生業を営む人々の洗練された意識にしっかりと現れているような気配を感じましたし、恐らく、これからの1年を通しての調査で明らかにすべき点であろうとおもいました。

せっかく雲仙にきたのであれば、この風景を見ていかなければいけませんという松本さんと波木事務局長のお言葉を受け、向かったのが、棚田を見下ろす展望台へ。山の等高線にそった段々畑の織りなす風景の素晴らしさ、人間と自然の共生の姿、共生しながら生きていくことの美しさを現実の姿として提示している風景がそこにありました。自然、そして、歴史のなかで、知恵と工夫を凝らして生きてきた人々の姿が目に見える形としてそこにありました。風景の美しさというのは、理屈ではなく、また、技術力ではなく、こういうことなのでしょう。



さて、当然のことながら、せっかくの温泉地ということもあり、懇親会の会場である「竹添ハウス」に帰る途中に、公衆温泉につかり、瞬時の温泉気分も味わうこともできました。

さて、会場の竹添ハウスに戻ってくると、さっそく今日の親睦会のメンバーである松尾さん、平坂さん、明日の座学講師の本田さんが集まっておられました。名物、久保田食堂の皿うどんをはじめ、地元漁港で採れ立ての刺身、大震災の被災地の東北の地酒が振舞われました。途中から、松本さんの旦那様、それと元気あふれる若き女性の中川さんも加わり、なかなか、盛り上がった会話は深夜まで続きました。



2. 千々石の歴史をしっかりと受けてまいりました！！

次の日の朝は、郵便局で働かれている千々石郷土史研究会の本田一義さんによる座学「千々石ミゲルについて」です。秀吉の時代に、日本で初めて欧州への海外渡航の経験を持つ千々石ミゲルの実像、そして千々石の歴史を、古地図や古文書等の歴史資料を参考に、本田さん独自の解釈を持って紹介されました。佐賀の竜造寺家との係わり、キリシタン弾圧の実像等、地域の詳細な歴史考察を踏まえ、貴重なお話を約2時間ほど、質疑応答も含め行いました。この内容は、これから本にする予定だということでした。



さて、いくつもの楽しい時間を踏まえ、今後の進め方について議論しました。詳細は、別途、報告があると思いますが、次のような方針が話し合われました。

- 月1回程度のペースで、共助研とチームギアのメンバーで、魅力発見の現地調査を行うこと
- 現地調査の際は、共通の魅力度評価項目を事前に考えておき、調査に一貫性をもたせること

さて、最後のメニューは、手作りピザによる昼食会。おはずかしながら松本さんに約束していたこともあり、私、矢ヶ部によるギターの演奏をバックにということで、松本さんご夫婦、松尾さん、中川さんにも参加していただき、おいしい白ワインとピザ、そして地元の生野菜をいただくことに。ニコ！！



「竹添ハウス」の主：猫の？ちゃん

今回のプロジェクトの大きな特徴は、地域おこしの活動を地元雲仙でしっかりと根付かせている松本さんの存在や、活動に参加、協力されている方々が、歴史のプロであったり、政治家の秘書さんであったり、あるいは、地物農作物をいかに付加価値のあるものに作り上げるかを考えられる方、などなど専門的な方々との共同戦線ということであろうと考えられます。

共助研の役割も自づと、私たちの専門力をふるに発揮しなければいけないと考えます。まあ、そこまで気張らなくともという気持ちもありますが、ともかく、「よそ者」からみた雲仙の評価というものをしっかり提供し、少しでも、松本さんたちの活動に協力できればと考えながら、福岡への帰途につきました。



今回の現地調査は、年度末の現業の忙しさもあって、オジサン 3 人組の出番となりましたが、中堅、若手のメンバーの方々へのつなぎ的な役割もあり、とりあえず目的を果たしたかなという気持ちでの 3 月の活動報告でした。共助研メンバーの方々、長谷に負けずに楽しいですよ、雲仙も！

おわり

【雲仙観光ホテルの食堂・客室の写真です。一生に一度は、こんな気品あるホテルでのんびりしてみたいものです】

雲仙観光ホテル：0957-73-3263

